

バス停からの 小さな旅



▲太田宿中山道会館横に復元された「糸遊庵」

25 「中山道会館」あまちの森・しょうよう線」 から糸遊庵を訪ねる旅

間文化の森 番 28・11110

岡本一平(1886～1948年)は明治末から昭和にかけて活躍した漫画家です。近代日本漫画の祖と呼ばれ、「太陽の塔」の作者である芸術家・岡本太郎の父でもあります。

戦時中、一平は現在の加茂郡白川町に疎開し、昭和21(1946)年に古井町に転居しました。太田宿の中山道会館には、一平が暮らした居宅「糸遊庵」の建材を用いた家が復元されています。

岐阜にきた一平は、地元根付く狂俳文化に着目し、17文字で生活感情を伸びやかに詠む「漫俳」を提唱します。また、若い頃の夢であった小説家を志して歴史小説の執筆にも挑んでいきましたが、昭和23年に急逝しました。

一平の葬儀には息子の太郎や有名な漫画家たちが東京から駆け付けました。遺族と漫画集団は、酒好きだった一平の身代わりとして一升徳利に愛用のベレー帽を被せ、ライン下りをして弔いました。

糸遊庵の前には、一平がこの地で詠んだ句が刻まれています。木曾川の情景を眺めた一平の和やかな眼差しが感じられます。



今回乗車したバス

行き：あまちの森・

しょうよう線 左回り3便
帰り：まちなかぐるっと線
右回り4便

09時24分 美濃太田駅南口
09時27分 中山道会館

下車後、会館と糸遊庵、
太田宿を散策。堤防道路を東へ20分ほど歩き、
糸遊庵があった場所を示す石碑「岡本一平終焉の地」を見学しつつ、文化会館を目指す。

12時54分 文化会館
13時04分 美濃太田駅南口



▲「岡本一平終焉の地」の石碑